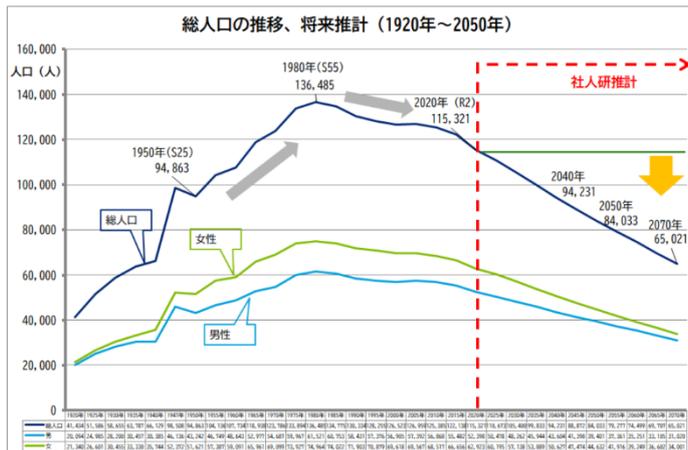


第2章 別府市の公園の現況等

1 社会情勢の変化

日本全体で人口減少が進む中、本市の人口も1980年をピークに減少しており、2020年時点では約11万5千人で、2070年に6万5千人まで減少すると見込まれています。

利用者があって効果を発揮する側面の大きいインフラである公園は、この人口の変化に対して公園のあり方そのものについての検討が必要となっています。



出典：まち・ひと・しごと創生改訂版
別府市人口ビジョン

2 公園の現状

(1) 都市公園の整備状況

令和7年3月現在、別府市は149の都市公園を整備しており、その他広場等を合わせると177の公園等を供用開始しています。また、令和7年3月時点で人口111,319人（別府市住民基本登録人口集計表）に対して、都市公園の合計公園面積は923,819㎡であり、一人当たりの都市公園面積は8.29㎡となっています。

▼令和7年3月31日時点の都市公園供用面積

公園種別	都市公園箇所数	都市公園合計面積 (㎡)
街区公園	134	50,554
近隣公園	8	93,865
地区公園	1	63,836
総合公園	2	380,770
運動公園	1	157,542
特殊公園	1	83,314
緑道	2	23,106
都市公園	149	923,819
その他	28	
都市公園・その他公園合計	177	951,282

(2) 中学校区ごとの都市公園整備状況

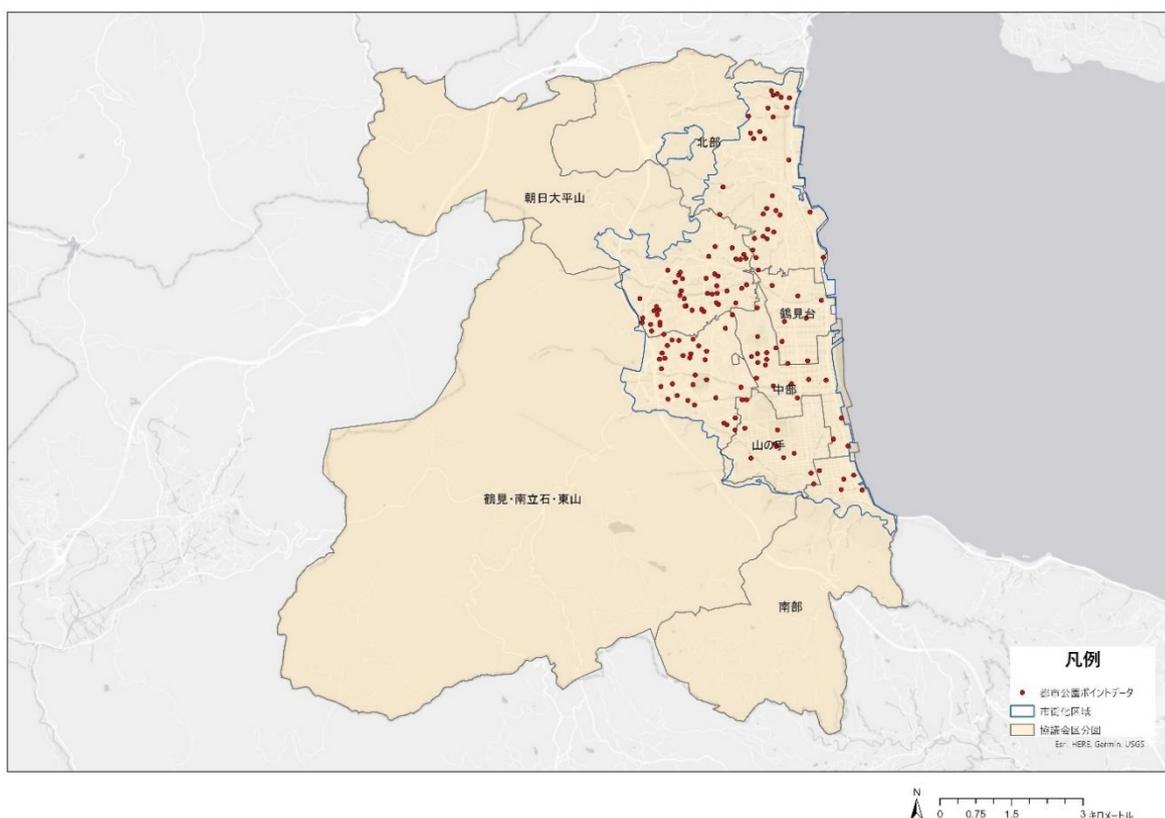
現在、別府市では中学校区を自治運営の範囲に設定し多様な主体が連携する「ひとまもり・まちまもり協議会」が新たな地域コミュニティを形成し、地域の特性をいかながら課題解決に取り組んでいます。本方針では、中学校区域ごとに都市公園の整備状況を確認し、課題の整理を行います。

この結果、校区内に別府公園を有する山の手校区は 16.54 m²/人と最も高く、続いて中部校区が 12.06 m²/人となりますが、その他の校区では、市域全体の一人当たりの都市公園面積を下回っています。

▼各中学校区の基本データ

中学校区域	中学校区面積 (ha)	人口 (人) (R2 年時点)	都市公園面積 (ha)	一人当たりの都市公園面積 (m ² /人)
中部	361.1	17,145	20.67	12.06
南部	1467.0	7,651	2.41	3.15
鶴見台	234.9	15,990	5.18	3.83
朝日大平山	2147.1	19,102	11.29	5.91
北部	1505.4	18,472	9.65	5.22
山の手	344.2	16,793	27.78	16.54
鶴見・南立石・東山	6468.9	20,168	14.39	7.14
市域全体	12528.7	115,321	92.32	8.01

▼都市公園の配置



3 都市公園経営の課題

現況分析を踏まえた、都市公園経営に向けた課題を整理します。

【配置と機能の課題】

- 市域全体における一人当たり公園面積は 8.29 m²/人であり、数値は上昇傾向にありますが、エリアごとに差があり、公園の量の偏在を解消することが求められます。
- 大規模な公園が中心市街地及び周囲にコンパクトにまとまっており、公園サービスを適切に提供しやすい環境となっている一方、郊外で新たに市街化されたエリアにおいては、小規模な開発公園のみとなっており、ニーズに対して適切にサービスを提供できていない状況です。

【公園整備の課題】

- 市としての政策的な整備や公民連携による整備、身近な公園での長寿命化対策による施設更新等が順次進められてる一方で、市域全域を見渡すと日常の修繕レベルの管理のみで既存機能以上のリニューアルが実施されず、地域ニーズに応じた公園機能の再編が必要な公園が多い状況です。

【公園管理の課題】

- 施設の老朽化が進行し維持修繕コストが増大傾向にあるが、財政状況を踏まえると積極的な投資をすることが難しいため、メリハリのある維持管理に向けた投資を検討する必要があります。
- 行政だけで 177 箇所全ての公園を万全の状態に維持管理することは難しいため、民間や地域住民との連携について再整理する必要があります。